

東京慈恵会医科大学 卒業生アンケート

集計分析結果報告書

2017 年4月

東京慈恵会医科大学 教育センター

## 目 次

1. はじめに
2. 調査方法
3. 調査結果
  - 3.1 : 回答者の属性
  - 3.2 : リッカートスケールによる評価
  - 3.3 : 自由記載による意見
4. まとめ
  - Appendix 1 : 自由記載
  - Appendix 2 : アンケート依頼書
  - Appendix 3 : アンケート質問用紙

## 1. はじめに

近年、各大学に教学マネジメントが求められています。

教育プログラムの改善のための方略のひとつとして、卒業生アンケートを実施致しました。大学教育がどのように現在の仕事に役立っているかという学修成果を直接的に知ることができる卒業生の意見は非常に重要な情報源となると考えられるからです。学生時代を振り返っての意見を受けて、慈恵医大のカリキュラムの問題点の抽出を行い、改善と見直し、カリキュラム改革へと繋げることが狙いです。

新カリキュラム導入以降の卒業生については、2006年と2011年に同様の卒業生アンケートを実施しています。今回は同じ卒業生母集団に加え、その後の5年間に本学を卒業した卒業生の意見も収集しました。

本調査により、各教育現場に対する評価を再確認するとともに、そこに存在する問題点を抽出し、さらなる改善の方策を模索したいと考えています。次回のアンケートまでに、どのような改革が行われて効果が現れるのか、今後の慈恵医大の教育の在り方について、持続的な検証を試みるための資料となることを期待します。

集計結果は、以下の慈恵医大教育センターホームページにて公開しています。

[http://www.jikei.ac.jp/academic/edu\\_center.html](http://www.jikei.ac.jp/academic/edu_center.html)

最後に、本調査にご協力くださった慈恵医大平成13年～28年卒業生のみなさまに感謝致します。お忙しい診療、研究の中、たくさんの貴重なご意見をお寄せくださり、心からお礼申し上げます。また、本調査の実施にあたりまして、同窓会名簿をご提供いただいた同窓会の方々にも感謝致します。さらに、本調査の実施は、慈恵医大教育センター、小松一祐、塩原憲治、竹林真紀子、高野洋子の各氏の多大なる協力の下に行われたことを感謝致します。

東京慈恵会医科大学 教育センター 中村 真理子

## 2. 調査方法

対象：新カリキュラム導入（平成 8 年度）以降に教育を受けた東京慈恵会医科大学医学部医学科の卒業生（平成 13 年卒業 ～ 平成 28 年卒業）

調査依頼については、同窓会が把握している卒業生名簿（平成 28 年 9 月現在）をもとに、現時点で名簿に連絡先が記載されている 1351 名に郵送にて調査票の配布を行った。

調査項目：アンケートはプリコード型の質問と自由記載型の質問とから構成される。

- ・回答者の属性として、卒業年度、臨床研修先、現在の勤務先を尋ねた。
- ・プリコード型質問では、大学教育で自身が獲得した能力、教育プログラム 20 個について、卒業後にどれだけ役立ったか、社会の中での貢献度について、リッカートスケールで評価を得た。
- ・自由記載型では、「慈恵の教育で良かったこと」「慈恵の教育で改善を要すること」「将来に向けて、慈恵の教育をよくするための提言」「慈恵の卒業生の使命、社会の中での役割」について回答を得た。

調査実施時期：平成 28 年 10 月 ～ 12 月末日

調査方法：郵送にてアンケート用紙を配布し、回答後に返送してもらう形態をとった。アンケート参加者に関しては、アンケート用紙の返送をもって本研究に同意したとみなした。回答は無記名とし、個人を特定しない旨を明記した。アンケート用紙には卒業年度とランダムに配した番号が記載されているが、連結匿名化となっている。アンケートについて詳細な説明の希望があった場合、何らかの方法（電話、メール、面談）によって説明が行えるように書き記した。

データの分析は、教育センターIR 部門で行った。

### 3. 調査結果

#### 1. 回答者属性

回答回収状況：標本数 1,351

有効回答数（回答率）：271（20.1%）

回答者内訳については以下の通り

年度	卒業生数	送付数	回答数	回答率	不明数
2001年	109	95	15	15.8%	1
2002年	90	71	17	23.9%	0
2003年	105	86	21	24.4%	2
2004年	107	83	15	18.1%	0
2005年	93	76	11	14.5%	2
2006年	107	85	20	23.5%	1
2007年	116	92	13	14.1%	3
2008年	100	87	18	20.7%	4
2009年	102	78	17	21.8%	3
2010年	104	81	16	19.8%	4
2011年	97	82	23	28.0%	4
2012年	101	89	20	22.5%	3
2013年	90	80	14	17.5%	1
2014年	102	81	13	16.0%	3
2015年	99	92	19	20.7%	1
2016年	107	93	19	20.4%	4
総計	1,629	1,351	271	20.1%	36

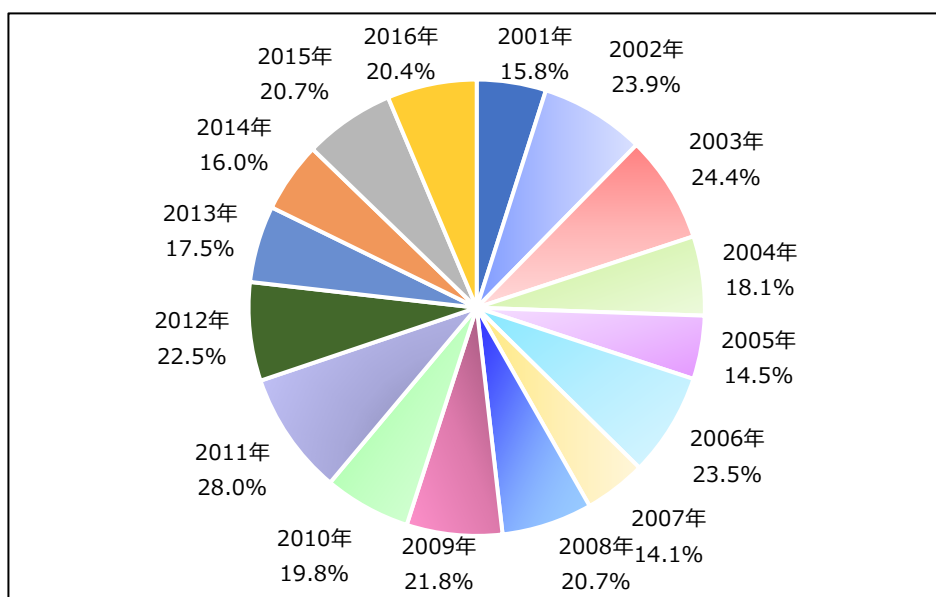


図1：回収率

平成 13 ～ 28 年の全卒業生数の実数は 1629 名であるが、同窓会名簿で連絡先が確認できてアンケート用紙を送付できたのが 1351 名であった。そのうち 271 名から回答を得たので、回答率は 20.1%であった。また、卒業年度別の回答率をみると、最も高かった 2011 年卒の 28.0%と最も低かった 2007 年卒の 14.1%とでは倍近くの開きがあり、データの信頼性に対する影響が懸念される。

研修先<sup>1</sup>と現在の勤務先について図 2 に示す。

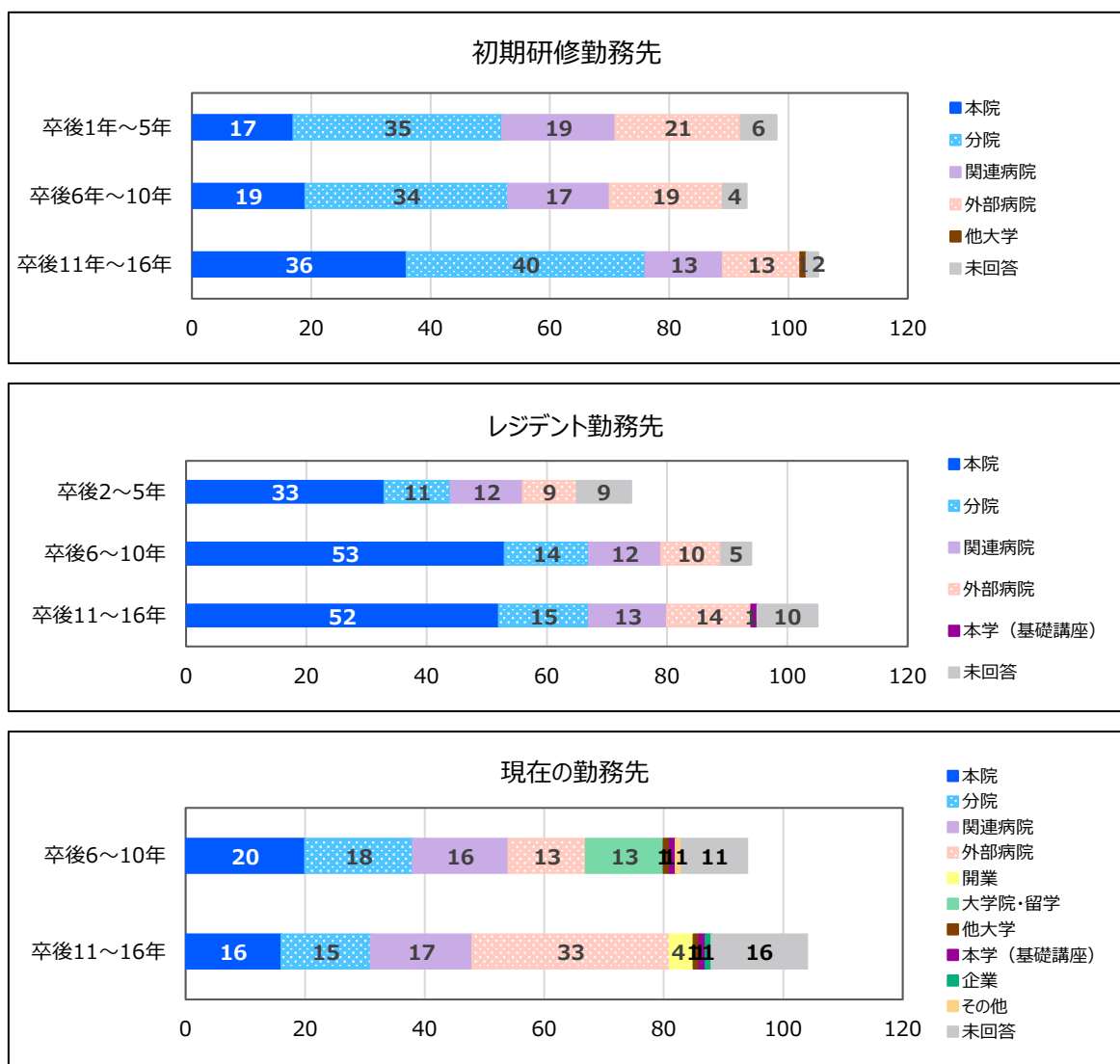


図 2：研修先と現在の勤務先

<sup>1</sup> 研修を慈恵の本院と分院の両方で行った回答者がいるために、「研修先」の合計が 144 名よりも多くなっていること、慈恵の場合「研修」は実質的に初期研修を指すが、後期研修をも含んでしまう可能性があること、さらには、2014、2015 年卒業生の場合は「現在の勤務先」が「研修先」である等、重複してカウントされている可能性がある。

## 2. リッカートスケールによる評価

慈恵のカリキュラムについて、卒業後に仕事をする上で役に立ったかどうか、感じたことを4段階のスケールで評価してもらった。

カリキュラム名と実施学年は以下の通りである。

- ・福祉体験実習（1年次）
- ・重症心身障害児・地域子育て支援実習（2年次）
- ・在宅ケア実習（3年次）
- ・病院業務実習（4年次）
- ・医学総論演習（1～4年次）
- ・国領校での教育（1年次）
- ・医学英語の演習（1～4年次）
- ・コンピュータ・EBM 演習（1～4年次）
- ・コース基礎医科学（2年次）
- ・コース臨床基礎医学（3年次）
- ・コース社会医学（3～4年次）
- ・研究室配属（3年次）
- ・コース臨床医学（4年次）
- ・臨床実習（5年次）
- ・選択実習（6年次）
- ・症候学演習（3年次）
- ・チュートリアル教育（3～4年次）
- ・基本的臨床技能実習（4年次）
- ・総合試験システム（筆記試験）（2～6年次）
- ・総合試験システム（口頭試験）（2～6年次）

2001年卒から2016年卒までの合計271名の回答について、各コース・ユニットに対する総合的な評価分布を図3で、各コース・ユニットの得点平均点を図4で示す。

得点は、「とても役立った」を5点、「まあまあ役立った」を3.75点、「あまり役立たなかった」を2.5点、「殆ど役立たなかった」を1.25点として算出した

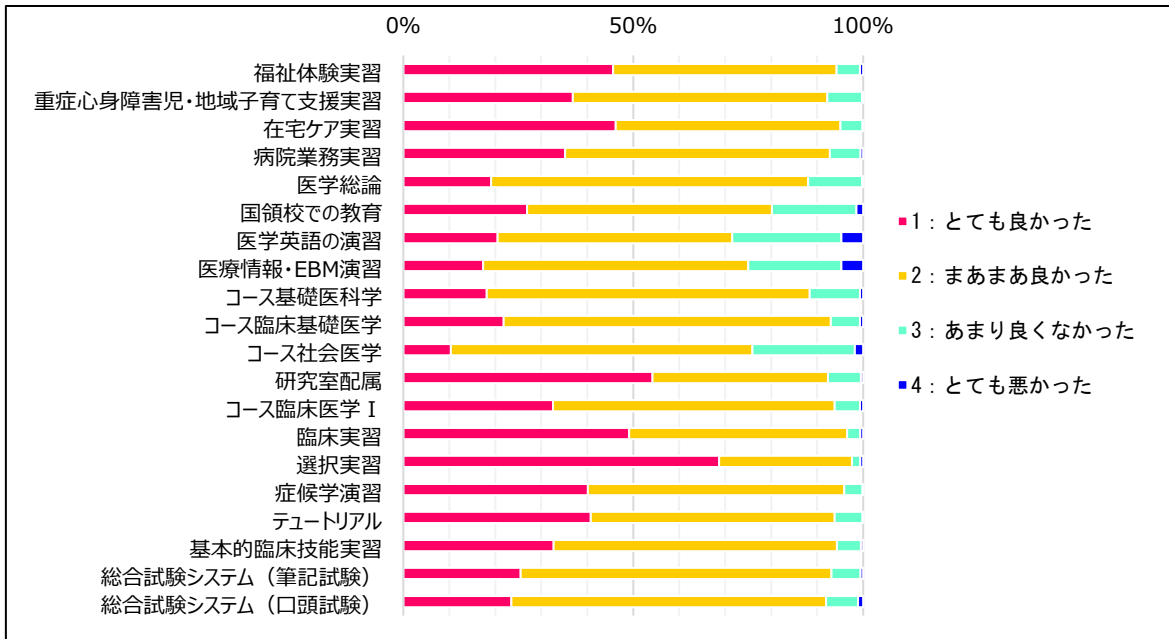


図 3：総括的授業評価

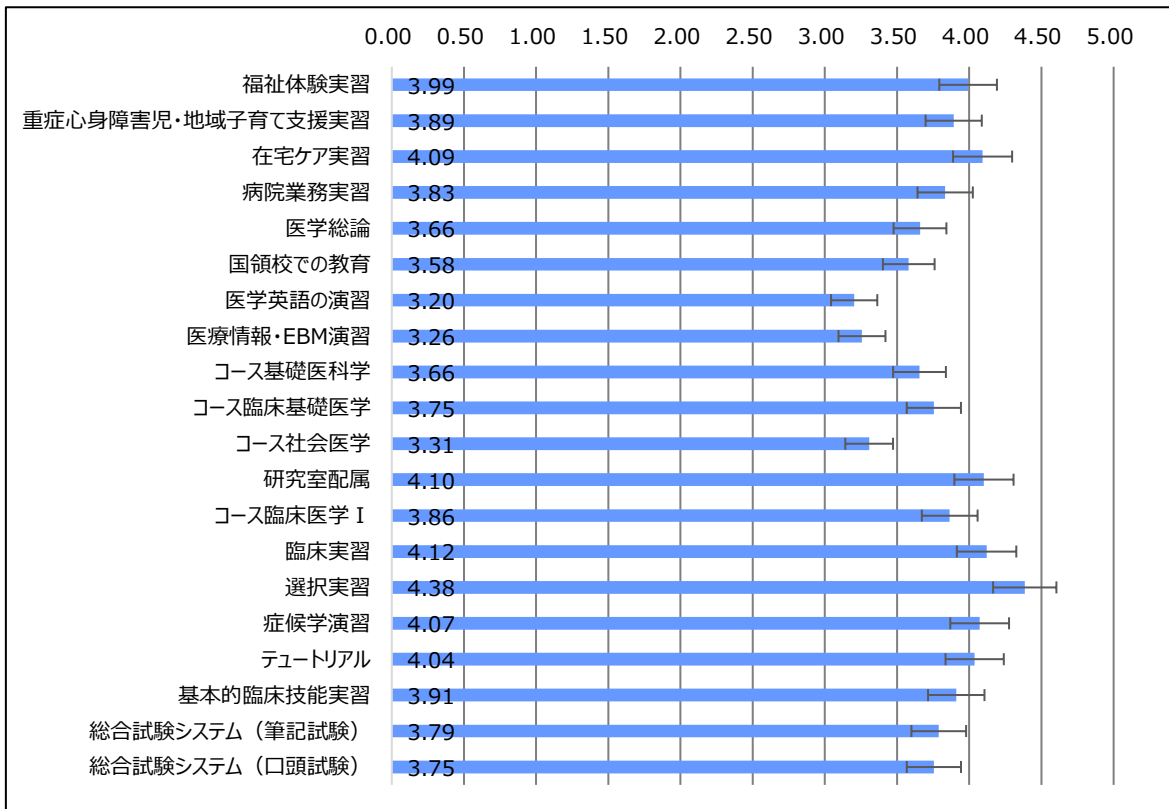


図 4：各科目評価の平均点

大学時代の教育内容について振り返った時、総合的には現在の仕事に役立っているとの回答が多数見受けられ、概ね満足度が高いことがわかる。



その中でも特に、「選択実習」は、「とても良かった」という評価が 271 人中、154 人と高く、平均点でも同様に「選択実習」が 4.38 点と高く、次いで「臨床実習」が 4.12 点であった。その他、研究室配属、福祉体験実習をはじめとする前臨床実習の評価も高かった。

一方で「社会医学」「医療情報・EBM 演習」「医学英語の演習」は評価が低く、否定的な意見も述べられている点に留意すべきである。

総合的な評価では学生時代の教育に対して概ね満足度が高いようではあるが、しかしながら自由記載では、各科目に対する意見や不満も多く見受けられ、プリコードの回答は、統計的な意味を与えるというよりも、自由記載のために学生時代を思い出すという意味合いの方が強いと考えるべきであると感じられた。

次に各コース・ユニットの年度別平均点の数値と総合点のグラフ（図 5）を示す。

	2001年卒	2002年卒	2003年卒	2004年卒	2005年卒	2006年卒	2007年卒	2008年卒	2009年卒	2010年卒	2011年卒	2012年卒	2013年卒	2014年卒	2015年卒	2016年卒
福祉体験実習	1.33	3.97	3.63	3.67	3.98	4.19	4.33	3.75	3.97	3.98	3.75	3.63	3.48	3.85	3.82	3.95
重症心身障害児・地域子育て支援実習	1.58	2.87	3.63	3.00	2.61	3.00	3.65	3.13	3.38	3.59	3.10	2.94	2.23	3.94	4.34	4.08
在宅ケア実習	1.58	3.31	3.63	4.25	4.09	3.88	3.94	4.10	3.90	4.22	3.97	3.63	4.02	4.42	4.41	4.14
病院業務実習	2.50	3.53	3.63	4.08	4.09	3.38	3.75	3.82	3.90	4.14	3.70	3.31	3.30	3.46	4.08	3.49
医学総論	2.83	3.60	3.63	3.67	3.64	3.75	3.56	3.89	3.60	3.75	3.37	3.06	3.13	3.65	3.82	3.75
国領校での教育	4.00	3.24	3.63	3.75	3.64	3.13	3.65	3.40	3.53	3.59	3.21	3.50	3.57	3.56	3.88	3.49
医学英語の演習	3.33	2.94	3.63	3.33	3.18	3.25	2.79	3.26	2.57	2.97	3.15	3.19	3.39	3.17	3.42	3.62
医療情報・EBM演習	2.42	2.87	3.63	3.42	3.30	3.31	3.17	2.99	2.79	3.05	3.21	3.31	3.39	3.56	3.03	3.75
コース基礎医科学	3.17	3.60	3.63	3.42	3.64	3.50	3.37	3.82	3.75	3.75	3.53	3.69	3.57	3.56	3.82	3.75
コース臨床基礎医学	3.42	3.82	3.63	3.50	3.75	3.56	3.46	4.03	3.82	3.83	3.80	3.75	3.57	3.75	3.82	3.82
コース社会医学	3.67	3.24	3.63	2.92	3.30	3.06	3.08	3.26	2.94	3.36	3.37	3.31	3.30	3.46	3.29	3.36
研究室配属	3.83	3.53	3.63	4.17	4.32	3.88	4.42	4.10	3.97	4.30	3.91	3.94	3.84	4.52	4.28	3.62
コース臨床医学 I	3.17	3.75	3.63	4.08	3.86	3.56	4.04	4.03	3.60	3.91	3.80	3.69	3.75	3.94	4.08	3.68
臨床実習	3.75	4.04	3.63	4.25	4.20	4.13	4.13	4.17	4.04	4.53	3.97	4.06	3.84	4.33	3.95	3.75
選択実習	4.00	4.34	3.63	4.67	4.43	4.31	4.33	4.31	4.56	4.22	4.18	3.81	4.20	4.71	4.34	4.14
症候学演習	2.75	3.60	3.63	4.33	3.98	4.19	3.85	4.24	4.12	4.06	4.08	4.13	4.11	3.75	4.21	3.88
テュートリアル	2.50	3.68	3.63	4.33	3.75	4.13	3.75	4.24	3.90	3.75	3.91	4.00	4.11	3.85	4.34	3.82
基本的臨床技能実習	2.58	3.60	3.63	4.08	3.75	3.69	3.75	3.82	3.53	4.14	3.80	3.75	3.84	3.85	4.01	3.82
総合試験システム(筆記試験)	3.08	3.68	3.63	3.25	3.98	3.69	3.75	3.82	3.68	3.75	3.75	3.81	3.39	3.56	3.82	3.49
総合試験システム(口頭試験)	2.00	3.53	3.63	3.33	3.86	3.50	3.65	4.03	3.46	3.67	3.75	3.69	3.66	3.56	3.75	3.42
総合平均点	2.88	3.54	3.63	3.78	3.77	3.65	3.72	3.81	3.65	3.83	3.67	3.61	3.58	3.82	3.92	3.74

図 5：各コース・ユニットの年度別平均点

2001 年卒で全体的に平均点が低い傾向にあるが、これは前臨床実習など新しく導入したカリキュラムであったために、運営上の問題があったのかもしれない。

各獲得した能力に対する総合的な評価分布を図 6 で示す。

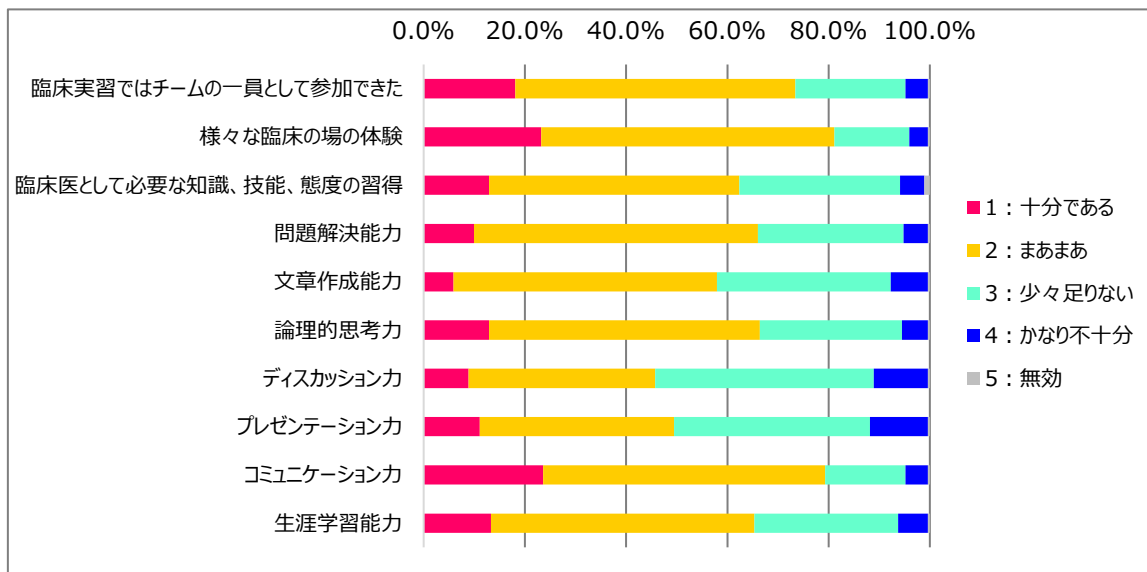


図 6：各獲得した能力・各学年の年度別評価